



松坂ブログ『新土佐日記』では、もっぱら島原情報を中心に話題を提供していますが、たまには国政がらみの意見も述べております。

以下に紹介するのは2015年夏に東芝の粉飾決算が報じられた時のもの。その1年後、私たちの年金が8兆円も消えていたことが判明します。(言い当ててしまった!)

参院選を前に非課税高齢者に一人3万円がばらまかれています、その膨大な選挙工作資金の20倍が失われました。

\*\*\*\*\*『新土佐日記』2015/7/23より\*\*\*\*\*

いろんなジャンル・分野の中で一番遅れているのが財界(経済分野)だが、人々はカネなしに生きていけないものだから、どうしても頭が上がらないのか、誰も暴走を止めないし、おっしゃる通りごもつともで、スルーしている。この分野に群がる学者たちがまた最悪で、あえてわかりにくい言葉で説明して、一般人とは違うのだという顔をしている。情けない。要は単なる拝金主義、カネが万能、命も愛もカネで買えると信じて疑わない。そのなれの果てが今回の東芝問題ではないだろうか。

テレビの番組でさえも、この度の東芝粉飾決算を説明できないでいる。御用学者が一層分かりにくい説明をする。そもそも粉飾の動機は何かさえ説明しようとしない。

視聴者は、赤字決算にして税金逃れをするのならわかるが、何故東芝は赤字を黒字にしてもうけたことにして、税金を余計に払う必要があるのか?と、そこがわからないのに答えようとしなさい。

東芝の黒字は実際の利益が支えているのではなく、株価操作というマネーゲームで支え

ている部分の方が大きく、もうかっていることにして、株価を釣り上げる(下げさせない)必要があった。というところでしょうか。

僕ら一般庶民はマネーゲームとは無縁だと多くの方は思っているかもしれない。ところが、日本中のすべての老後を引き受ける年金機構には兆の単位のお金が集まっていて、そのまとまったお金をマネーゲームで運用する仕組みを作っているのである。

GPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)を通じて、僕らの老後のために積み立てた年金を賭け金にして堂々とマネーゲームに参加しているのである。年金運用は(一種の賭博だから)損してもしようがない、兆の単位でお金が消えてもお構いなしというわけだ。

お金持ちは有利である。普通なら業績の悪い会社の株は株価が下がる前に売ってしまう、売られ始めればさらに株価が下がる。そんな時に逆に買い支えて市場を混乱させるテクニクが使える。「あれ、何で買いが殺到するんだ?好転する要素があるのかな?と思わせる。何せ株が買われて、結果株価も上がるんだから、みんなつられてさらに買う。株価が上がったところで売り抜ける。よくあるパターンだ。違法でない範囲でこんなことばかりやっている。

今回の福島原発事故。原子力村の最大エリート企業が東電であり、東芝だ。毎年毎年兆の単位を売り上げてウハウハだった。そこであの悲惨な事故だ。デタラメの限りを尽くしていたわけで、核のごみ処理はおろか、目先の安全も未だ確保できず、現状維持のために多くの貧困層労働者の命をすり減らして、なお終息の見通しも立っていない。東電のデタラメはもちろんだが、機械設備を売り込んだ東芝の責任はどうなのか。

当然蓄積していたお金はすべてつぎ込んで安全対策に乗り出さないといかん。しかも未だ収束のきざしもない。当然東芝の株価は暴落する。と思いきや、東芝株は安定していたのだそうな。